

なぜ利用者は減少したのか？

バス利用者の減少背景には、「送迎バス」のことも乗降者の減少に現れている。

まず、年々進行している少子化である。バスの利用者は概ね交通手段を持たない児童・生徒である。以前の人口ピラミッドは「釣鐘型」であったが、現在は「逆ピラミッド」のような形となり、利用者層の相対的な減少という背景がある。

次に、病院の送迎バスによる影響である。進歩する医療技術、求められる高いサービス、田舎から都市部への患者の流出など医療界を取巻く環境も厳しさを増している。患者の獲得を目指して運行している

「送迎バス」。このことも乗降者の減少に現れている。

また、単にバス運賃が高く、本数も少ないこともその要因となっている。都市部のように多くの利用者がいれば、低料金の設定が可能であり、本数も増やせるであろうが、地方においては利用者も限られる程度高い運賃設定と限られた本数とならざるを得ず、そのことが更にバス離れに拍車をかけているといった観はゆがめない。

負担軽減のために、家庭による送迎も多く行われているのが現状だ。

「送迎バス」。このことも乗降者の減少に現れている。

この人に聞く

福島交通(株)石川営業所長

鈴木 二元さん

昔のようによくのバスを走らせたい

「ご利用頂いているお客さんの多くは顔なじみで、誰がどこで乗るのかほとんどわかります。悪天候にもかかわらず、首を長くして待っているお客さんを見ると、昔のように多くバスを走らせたなら、どんなに便利だろう」と思いますよ。

バスの多様性

近年、高齢化の進行とともに、高齢者の事故割合も高くなってきている。将来においては高齢者の運転免許取得の制限も予想される。

今後、更なる高齢化が予想されるなか、公共交通機関としてバスはなくてはならないものと考えられる。

また、バスは大量輸送が可能であり、環境に優しい乗り物であることから、マイカーからバスなどへの転換は、地球環境への負荷の軽減、省エネルギーの促進、交通事故の抑制、高齢者・障害者などの交通手段の確保など、様々な社会問題を解決するうえからも大きな効果がある。

維持するために

では、地域住民の日常生活を支えるとともに、豊かな地域社会を形成

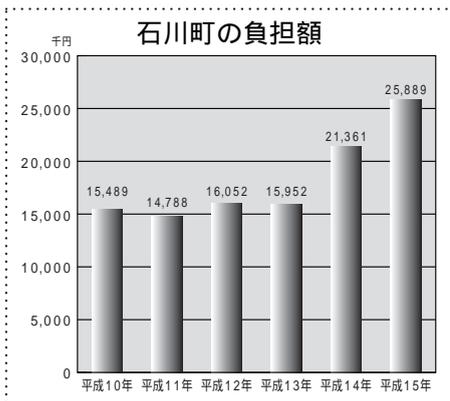
住民のコンセンサス：人が乗らなければバスは走れない

線バスを維持するには、住民のコンセンサスが大切であり、沿線住民が中心となって日常から可能な限り利用することではないだろうか。

沿線住民は、その路線があるというだけで、路線が走っていないところと比べても少なからず恩恵を受けている。将来においても豊

する重要な基盤である「バス」を維持するには、どのようにすればよいのか。

従来と同様に沿線自治体が補助金を出せればよいが、町の財政状況を考えてこれ以上の負担増にはとても対応することは難しく、これだけの額を今後も補助し続けられるかどうかもわからない。



かな都市的生活を営みたいと欲するのであれば、平日頃から一人でも多くの者が利用することが最善なのではないだろうか。

バスという地域の足が存続するかどうかの鍵は、利用者である私たちが握っていることに間違いはない。人が乗らなければバスは走れないのだ。

公共施設 の 自転車 省エネ 施策

石川町では、町内のエネルギー消費量などの調査・研究に基づいて、10年間で15%の二酸化炭素量を削減しようとする目標を立てた「石川町地域省エネルギービジョン」を推進しています。
2月号では、農業への省エネについてお知らせしました。
今月号では、公共施設と自動車の省エネについて紹介していきます。

公共施設の省エネ施策

普及啓発

広報活動の促進

町民のみならず事業者への省エネルギーの取り組みが進むよう、広報活動の促進を図ります。

省エネルギー推進委員会等の設置

町民・事業者の省エネルギーの取り組み状況を定期的に把握するとともに、必要な措置を検討します。

CO2買い上げ制度の検討

炭素税の導入、市町村によるCO2買い上げ制度を検討したり、無駄なエネルギーは使わないなど、率先的な行動に取り組みます。

公共施設での省エネルギー

役所の率先行動

役所が町民・事業者の率先的な役割を果たすため、通勤には自動車の乗り合いや自転車通勤を検討したり、無駄なエネルギーを使わないなど、率先的な行動に取り組みます。

省エネルギー技術の導入

新庁舎の建設に当たっては、省エネルギー型の施設整備を推進するなど、公共施設での省エネルギー技術の導入を検討します。

省エネ機器の導入促進

事務機器の製品を購入する際には、省エネルギー型の製品の導入を促進します。

自動車の省エネ施策

アイドリングストップ

冬の暖機運転は必要最小限に抑えるなど、駐車場や道路で長時間アイドリングを行わないよう、町民や事業者に対してアイドリングストップ運動のPRに努めます。

省エネカー・低燃費車購入の推進

新規に自動車を購入する際には、

省エネルギーカーや低燃費車を購入するよう町民や事業者へのPRに努めます。

「歩くこと」の推進

町民に対して、近距離の通勤・通学には徒歩・自転車を利用したり、町内に散歩コースを設定するなど、できるだけ歩くことを心がけるようPRに努めます。

パークアンドライドの導入

郡山圏内などへの通勤者に対してJR水郡線での通勤を促進するため、磐城石川駅などの駅周辺に駐車場を設置し、駅に家用車を駐車して電車通勤ができるよう、パークアンドライドの導入を検討します。



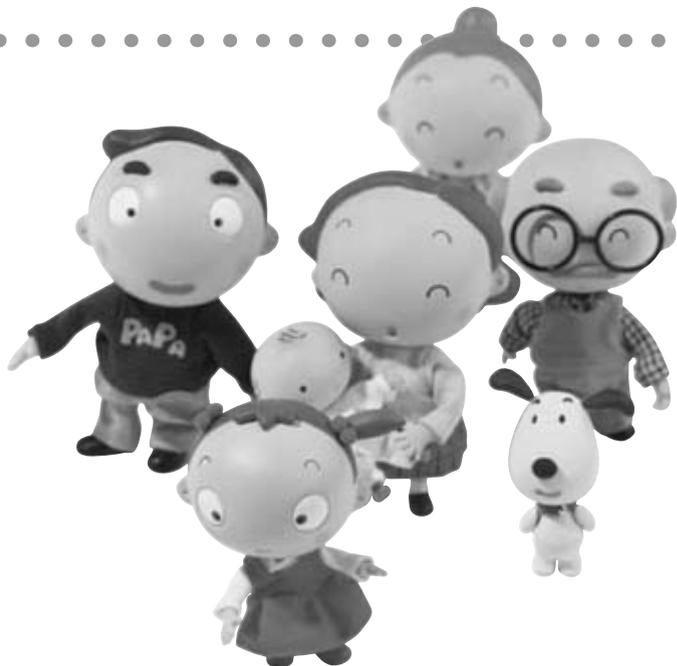
文化幼稚園で 三世代餅つき交流

1月23日、石川文化幼稚園で三世代餅つきが開かれました。

子どもたち、保護者、祖父母など約200人が参加。

祖父母から提供された餅米2俵を、真っ白になった園庭で、保護者と子どもたちが「ベッタ・ベッタ」と杵をつき、部屋の中では、あんこ餅、きなこ餅、お雑煮や大きな大福を、おばあちゃんなどに教わりながら作っていました。

参加者たちは、美味しそうに、楽しそうに、搗き立ての餅を食べていました。



VS



中村嘉雄さんに 法務大臣感謝状

1月20日、町長室で人権擁護委員を長年努めた中村嘉雄さん（塩沢字大白向）への法務大臣感謝状贈呈式が行われました。

黒津綾子福島地方法務局白河支局長が感謝状を手渡し、「尽力に感謝するとともに、退任後も地域の人の相談相手としてがんばってほしい」とあいさつ。西牧立博町長も功績をたたえました。

中村さんは、人権擁護委員を昭和63年から5期15年務め、12月末に退任。この間、白河人権擁護委員協議会副会長、同協議会石川部会長を歴任しました。

文化財防火デー 町指定文化財を査察

1月26日、石川町教育委員会では、第50回文化財防火デーにあわせ、町指定文化財6件の防火査察を行いました。

県文化財保護指導員1人、町文化財保護指導員4人、消防職員2人、消防団2人、教育委員会担当職員3人が、消火用具・水利の状況・防火管理などの防火体制をチェックしました。

乗蓮寺の銅鐘 薬王寺の薬師堂と仏像 石都々古和気神社の鯛口 華蔵寺の銅鐘 北山形区の福満虚空蔵堂 谷地区の千手観音立像

HOT NEWS

町の ホットニュース

身近に行われている
楽しいイベントや
明るい話題などを
役場総務課まで
お寄せください。

石川町体育協会 スポーツ功労賞などを表彰

1月29日、石川町共同福祉施設で、石川町体育協会（岡崎重春会長）の平成15年度表彰式が開かれました。

今年は、一般、中学生を含む76人が表彰され、スポーツ活動等に精進することを誓い合いました。

スポーツ功労賞・桑沢 康さん（写真・石川スケートクラブ）、スポーツ普及賞 熊田重信さん（石川スケートクラブ）、高原光雄さん（石川町ソフトボール協会）、優秀指導者賞・鈴木宗徹さん（ウエイトリフティング・県立石川）、最優秀選手賞・小豆畑郁也さん（自転車・学法石川）、岡部愛美さん（柔道・学法石川）、寺島啓史さん（ウエイトリフティング・県立石川）、優秀選手賞・69人



長久保地区みらいまちづくり 検討会が現地調査など

2月2日、役場分庁舎会議室で、第3回長久保地区みらいまちづくり検討会（日下志郎会長・委員11人）が開かれました。

長久保地区は用途地域の変更に より新たな宅地開発や店舗の進出など将来性が高く期待されていることから、より良いまちづくりを進めるため地元の代表や県・町を交えた検討会が進められています。

現地調査や講演会をはじめ、この日は他の事例をプロジェクターで身ながら意見交換するなど、国道118号沿線の良好な環境を活力あるものにしようと話し合いが行われています。

悪い鬼は飛んでいけ 子どもたちが節分豆まき

2月3日、野木沢幼稚園（佐久間園長・園児19人）で節分恒例の豆まきが行われました。

元氣よく豆まきの唄を歌った後、佐久間園長が鬼の嫌いなイワシの頭を焼いてヒイラギの枝に刺す言われなどを話し、悪い鬼を追い払って」とあいさつ。

鬼の創作物が飾られた遊戯室では、子どもたちが、2組に分かれ大きな声で、鬼は外、福は内」と豆をまき、鬼のお面をかぶった子どもたちが、手づくりの升にいっぱい豆を拾っていました。



青春 ど真中 Q&A

中田字皆宝内
三森康裕さん(22歳)



職業 屋敷人にある株志賀建設で働いています。

Q 今、情熱を傾けて取り組んでいることは何ですか

A 会社に入ってから見て、みんなが明るく、楽しい職場だなあと思いました。覚えなくてはならない仕事があるので、がんばって身につけたいと思います。

Q 将来の夢を聞かせてください

A 家族には、いろいろとお世話になっているので、何か恩返しをしたいと思います。また、

明るく、笑顔の絶えない家族を持つことです。

Q 町政に望むことはなんですか

A みんなが明るくなる町、住みやすい環境づくりを望みます。

Q 最後に理想の女性のタイプは

A 優しく、しっかりしている人。何事にも思いやりのある人。

次回は、吉田 万理枝さんです。

ほのぼのの二人三脚

このコーナーでは、金婚式(結婚50年)を迎えられたご夫婦を紹介していきます。

Q&A



大橋 伍藤さん(71歳)
栄子さん(70歳)
住所/山形字高蒲沢

Q お子さんは何人ですか

A 子どもは4人授かり、孫が9人になりました。

Q 結婚されて50年、思い出を聞かせてください

A 私たちは昭和30年4月に結婚しました。葉タバコ、水稲なども作っていましたが耕地が少なかったため、昼は勤め、夜は農業と妻と共に協力し合い生計を立てました。私は、昭和27年に自動車免許を取得し、森永乳業で牛乳の集荷やタクシー、バスなど、運転業務で過ごしました。

Q お二人の楽しみは何ですか

A 伍藤さん 菊づくりです。栄子さん 花づくりです。

Q 石川町の一番好きなところを教えてください

A 石尊山のイルミネーション、春の桜並木、冬のあさひ公園前のイルミネーションがとても好きです。

Q 町政に望むことは何ですか

A 国道沿いの兔田地区30戸は、少ない地下水を利用しているため、簡易水道を延長してほしいと思います。

HAPPY SMILE



「ハッピースマイル」では1歳から3歳までのお子さんの写真を募集しています。応募方法は、お子さんの写真名前前誕生日、電話番号を明記して、封書で役場総務課広報係までお送りください。後日担当が撮影にお伺いします。応募多数の場合は、掲載できない場合もありますのでご了承ください。



あやか
仲田 彩花ちゃん
中野字寺内
茂司さん・佐和子さんの長女
平成13年2月10日生まれ
「思いやりのある人に育ってネ！」

人物発見伝

福井県 佐川 泰正 さん

生まれはどこですか
 那須連山の夕陽がきれいに望める赤羽字新宿です。
 どんな思い出がありますか
 幼い頃は、保育所もなく母に連れられて行く畑や野原が遊び場で、蛙とおいかげっこをしていました。また、夏には阿武隈川で泳ぎ、冬は手づくりのそりやスケートで遊びました。元々手先が器用だったので、小・中学校では理科や図工が得意でした。また、郡山の高校へ通ったこともあり、自転車で石川駅まで行くのが本当に長く感じました。
 今、どんなことをしていますか
 漆塗りの魅力に引かれ、昭和50年から会津若松市福井県鯖江市河和田にて漆工の修行をし、昭和56年に鯖江市で独立しました。

日本の伝統文化・漆塗りを30年 見えない仕事をきちんとやるのが大切

お碗、鉢、皿、茶たく、お風呂、重箱、箸、スプーンなど、自分がデザインした器の漆塗りを手がけていますが、問屋の注文を受けるほか、各地で展示会も開いています。展示会では、作った器に料理を盛り、実際にお客様に食していただくのですが、美味しそうに食している姿を拝見したり、器を誉めていただいた時が本当に嬉しいですね。
 漆器は、はげるイメージがありますが、見えない下地の仕事をキッチリやり、丹精込めて作ったものは長持ちしています。
 あなたから見る石川町は
 故郷からの米、果物、野菜などの贈り物は、どの物よりも美味しく感じています。新たな挑戦とともに、伝統文化も残して欲しいと思います。



展示会での器を使った食事会のようす



ふるさと

塩沢字割田作

田中 順孝さん



北海道沙流郡日高町

あなたの故郷はどんな所ですか
 面積の95%が山林で日高山脈の裾野にある人口約2、100人の北海道沙流郡日高町です。
 50年以上前にもなりますが、時には熊やえぞ鹿などに会え、春にはスラン、山桜、こぶし等が咲きます。清流にはヤマメも動き始め、北国の春を連想させるとても美しいところだった記憶があります。
 今は道路も整備され日勝峠を越えると十勝平野に出ます。
 いつ、石川町にきましたか
 昭和37年に仕事の都合で石川町にきました。
 石川町の印象は
 鉱山の採掘の仕事で石川町へ来

た当時は、とても活気があり、人情味もあふれ、城下町の雰囲気を持ったすてきな所だなあと感じました。
 町政に望むことは何ですか
 石川町の発展を思い、希望を一言。若い人が石川町に定着して働ける職場がほしい。子どもたちを安心して育てられる環境づくり。自然を活かした観光スポットづくり。早くこの不況を脱して静かな町を明るい活気のある町に復活することを望みます。

かいと 佐々木 凱士ちゃん

古館
 伸哉さん・晃子さんの長男
 平成15年1月10日生まれ
 「パパとママの大事な宝物です。健康でたくましく、そして思いやりのある優しい子に育ってネ！」





私の好きな石川・変えたい石川

聞いてみました 町の声

郷土の良いところに向けて 地場産業の掘り起こしに創意工夫を

仲田 茂司さん 中野字寺内



今、どんなことをしていますか
平成6年に石川町に帰り、父が創業した有限会社・仲田種苗園を継いで、社長になって5年になります。

当社は、公共用緑化樹木を生産してきましたが、公共事業の縮小によって、新しいニーズに対応し

た植物の開発を進めています。

創業者の理念は、「在来植物の優良なものを生産する」です。私たちは、東京の造園設計事務所の指導をいただきながら、里山植物をマットにした商品を開発して、首都圏向けに出荷していますが、反響は大きいです。この新商品を軌道にのせるために、父や社員さんとがんばっています。

どんなところが好きですか

以前、学芸員として勤務していた三春町では、自由民権運動の研究にも携わることができました。自由民権運動の全国的な中心地であった石川町の歴史は、私の誇りです。また、子どものころ、父や近所の人たちと、野ウサギを狩っ



石川で最も標高が高い二本ブナ

た里山の自然が大好きです。

どんな将来を望みますか

石川町には、豊かな自然、世界的に知られている鉱石、そして自由民権運動の歴史、と宝ものがたくさんあります。

ところが、近年はすべてに平均化してしまっ、特色が薄くなっ

ているのではないのでしょうか。全国の地方が衰退する中で、萎縮してしまっているような気がします。私たち一人ひとりが、郷土の良いところに向けて、誇りを持ちながら、地場産業の掘り起こしなどに、創意工夫を重ねる必要があります。

例えば、石川町の里山ですが、

東京の知人たちを、生家の近くにある中田の「二本ブナ」に案内したら、その自然にとっても感動しました。母の山菜料理も喜んでくれました。私は、事業ネットワークの「5x緑」研究所のホームページに、「里山通信」を発信していますので、ご覧下さい。

<http://www.gobaimidor.jp/>

町づくりを学ぶ

合併問題 Q & A

Q 各地域の歴史、文化、伝統などが失われていきませんか？

A 合併前に地域においてそれぞれ育まれてきた歴史、

文化、伝統などについては、旧市町村の名称を市町村内の町・字名や学校などの公共施設の名称などとして残したり、合併を機に地域の資料館などを整備したりして、新市町村の貴重な財産として守っていくべきものです。

住民のみならずも地域の歴史や文化を見直すチャンスではないでしょうか。

町史

編纂室だより 79



古文書の伝わり方はさまざまです。漆塗りの立派な箱に入っている系図、葛籠（つづら）に収められた庄屋文書、代々の行政区長に引き継がれてきた区有文書、風呂敷に包まれ親から子へと伝えられた家の文書、等々。今回は軽視されがちな、襖（ふすま）の下張りに使われていた文書を紹介します。

見えてきた 明治初期のたばこの生産と流通

石川地方の地場産業

江戸時代から昭和初期にかけて、地域住民の生活を支えてきた産業はいつまでもなく農業でした。

なかでも現金収入源になったものが、馬産・葉たばこ・養蚕であることはよく知られておりました。

ところが、意外にもその実態を伝えた史料は少なく、関係資料の発掘が町史編纂の課題になっております。

夫家文書（大字双里）を拝見する機会がありました。明治以降の近代文書を収めた箱の他に、襖をはがし束にしたものがあり、その下張りが目にとまりました。まさしく葉たばこの生産と売買に関する明治時代の文書で、書いた人はこの先祖の水野久右衛門（文政11年、明治27年）のようです。早速借用し、慎重にはがしました。

襖の下張り文書

それによると、明治16年7月1日から15日の間に、「玉造煙草（たばこ）を955個、重量28貫300匁（約7.5kg）、金額にして8円23銭分を「製造」し、これを翌月山形村の遠藤長吉に売渡しています。

船橋（船橋市）の小川伊兵衛、下総行徳（市川市）の矢吹亀吉などです。

民権家も登場

原料葉たばこの買入れ先は形見村の角田藤左衛門、石川村の鈴木慎之助、湯郷渡村の添田保兵衛、松川村の瀬谷長吉、母畑村の木戸宗三郎、須釜村の我妻栄造、南山形村の十文字伝三郎などです。彼らは村内の農家から葉たばこを買集めていたのでしょう。

松川葉を納入した鈴木慎之助は旧高田村の庄屋で、角田と十文字は石陽社の社員でした。

久右衛門は石川・東白川郡内の慎之助から葉たばこを買入れ、加工したものを主に関東方面に売りさばっていたと考えられます。

ふくしま学習空間・夢まなびと
「県民カレッジ」がいよいよスタート 石川町教育委員会

「ふくしま学習空間・夢まなびと」は
福島県では、平成16年度から県内のさまざまな学習機会を体系化し、県民のみなさんに提供する、福島県全域を対象とした「新しい総合的な広域的学習サービス提供システム」ふくしま学習空間・夢まなびとをスタートさせます。

県や市町村の施設をはじめ、大学、民間事業者、NPOなど県民に学ぶ機会や場を提供する機関が連携、協力した生涯学習のしくみです。

- 県民のみなさんは、県主催の講座に自由に参加できます。
- 県民のみなさんは、他の市町村の講座（地域講座）に自由に参加できます。

（お知らせ）
ふくしま学習空間・夢まなびと（県民カレッジ）
連携講座の募集
6月から始まる、県民のみなさんの生涯学習を支援するしくみ「夢まなびと」では、連携して講座を実施していただく機関・団体や企業、個人を募集しています。

募集方法
お問い合わせ先の申込書で応募してください。申込書はホームページからもダウンロードできます。

募集期間
2月末から随時（3月までに寄せられた講座情報は、学習情報誌創刊号に掲載されます。以下次号掲載）
お問い合わせ先
福島県教育庁生涯学習文化グループ
〒024 521 7786 FAX 024 521 7972
県中教育事務所
〒024 935 1488 FAX 024 935 1494
ホームページ
[http://www.kenmin college.fks.ed.jp/](http://www.kenmincollege.fks.ed.jp/)

その油断 火から炎へ 災いへ

火災が発生しやすい時季 みなさん 気をつけて!!



春先を中心に、たき火や火入れの拡大、たばこ火の不始末による林野火災が多く発生しています。
林野火災を防ぐポイント
空気が乾燥し、風の強い日は、火入れ・たき火をしないようにしましょう。

たき火をするときは、周囲に燃えやすい物が無いところで、水バケツなどを準備して行いましょう。完全に火が消えるまでは、目を離さないようにしましょう。
屋外でたばこを吸うときは、携帯用の灰皿などを用意し、火のついたたばこを捨てるのは止めましょう。

平成16年1月1日から、須賀川地方広域消防組合管内災害出動に伴う緊急車両のサイレン吹鳴方法が変更されました。
あーサイレンだ 火事かな?と思ったら良く聞いてください。
火災出動の時
ポンプ車はしご車等のサイレンは「ウーウーウーカンカン」救助出動等
(火災以外の出動)の時
救助工作車ポンプ車のサイレンは「ウーウーウー」

暮らしの豆知識

自動車保険を選ぶとき

自由化の進んだ自動車保険
自動車保険には法律で加入が義務づけられた自賠責保険のほかに任意保険があります。近年、任意保険は自由化によりさまざまなタイプのものが登場し、それだけに選び方も難しくなっています。任意保険の主な申し込み経路は、代理店と通信販売ですが、車種や運転する人の状況によって異なるものの、一般的に通信販売の保険料の方が安くなるケースが多いようです。

なお、近年ではほとんどの会社が導入しているリスク細分型保険は、契約者のリスク度合い(年齢居住地域など)に応じて保険料が決まるシステムです。事故を起こしにくい人は保険料が安く、逆に起こしやすい人は保険料が高くなるので、必ずしも保険料が安くなるわけではありません。
自動車保険を選ぶポイント
補償内容や特約、サービスは各社さまざまなので、商品の比較が



ら損・得を考えてもなかなか選べません。むしろ、自分が自動車保険にどのようなサービスを求めるかを考えることが大切です。受けられるサービス「支払う保険料」「事故の時の対応」に望むもの、あるいはその優先順位がポイントです。代理店では、人を介して加入するので顔の見える安心感がありますが、代理店によってサービス内容が異なりますので、よく内容を確認しましょう。なお、最近では通信販売でも事故時の現場急行サービスなど「顔の見える」対応をする会社もあります。

いずれにしても自動車保険はかけたままにせず、随時見直しをしていきましょう。

家庭・オフィスですでける省エネ18の提案



みんなで
エコライフ

電気製品の主電源
が入りっ放しに
なっていない

電気製品の待機時消費電力は決して小さくありません。リモコンでスイッチを切つても電力を消費する機器がたくさんあります。電気製品の主電源をこまめに切りましょう。



食改 だより

誰でもできる玄米ダンベル体操

健康づくりのためには食事・運動・休養が大切。食生活改善推進員は、布と玄米を使って簡単に作れる「玄米ダンベル」を利用した『玄米ニギニギダンベル体操』の講習会に参加しました。

寒い時期の運動不足を家庭で解消できる、15分程度で体に負担をかけずに弱った筋肉を鍛えることができ、ポカポカ力温まります。早速自分のダンベルを作って家庭で実践しています。

玄米ダンベル体操は、これからの食改活動に取り入れていく予定です。

玄米ダンベル体操を毎日続けると、約1ヶ月で白米になります。いざという時の非常食になります。

ダンベルを握ったら、手首を内側に曲げて体操するのが、筋肉によく効くポイントです。



「みんなで地域づくり」

介護保険の制度がスタートして高齢者や介護を必要としている人の生活の仕方もずいぶん変わってきたように思います。

先月、誰もが安心していきいきと暮らせる地域をめざして」というお話を聴きました。

今まで「介護する立場」...と思っていたのですが、あなたはどんな介護を受けたいですか、あなたの周りがどんな地域だったら今の家でずっと暮らしていけるでしょうか...と投げかけられました。戦後の団塊の世代が一番多い高

齢者となるのは、まさに、あと20〜30年後。サービスも限られているし、誰にも世話にならず元気だったらいいのですが、そうとも限りません。好きなようにしてきたつけが来るかもしれません。

さて、そのためには隣近所や、友人といった「ちよつと」というと話しを聴いてくれる人がいることが大切です。これからは、心の支えも含め、この地域の力、友人の力がとつても大切です。自分の住んでいる地域で、普段からなげない会話の多い交流が始まるのが第1歩です。いずれ「幸せ応援団」に広がるように...

医療費を大切に

医療費はここ数年増加を続けてきました。このまま医療費が増加すれば、その分、みなさんに支払っていただく保険料も高くなってしまいます。

みなさんの医療費を大切にするために、何ができるか、一緒に考えてみましょう。

医療費が増えたわけ

生活習慣病など、治療が長期にわたる病気が増えた

医療技術の進歩により、治療にかかる費用が増えた

高齢化が進み、医療機関受診者が増えた

健康づくりに取り組もう

健康づくりのポイントは？

- ・ 1日3食、栄養バランスを考えた食事をとる
- ・ 適度な運動を習慣づける
- ・ 休養をとり、からだと心の疲れを解消する
- ・ 生活リズムを整える
- ・ 節煙、節酒を心がける

- ・ 家族や社会とのかかわりを大切にする
- ・ 目標や生きがいをもった生活をする
- ・ 定期的に健診を受ける
- ・ 何でも相談できる、かかりつけ医をもつ

心身ともにいつまでも健康でいるために、できるものから取り組んでいきましょう。みなさんの健康が、医療費を大切に、国保制度をささええることにつながります。



今月の納期 町県民税申告相談会は3月15日までに!!



第49回福島県市町村広報コンクール 広報いしかわが入選

福島県と福島県広報協会主催の「第49回福島県市町村広報コンクール」の審査会が1月28日県庁で開かれ、石川町が広報紙の部（町村の部・人口1万人以上）で「入選」を受賞しました。

今回入選したのは「広報いしかわ・平成15年12月1日号」で、「農と食」をテーマに生産者から小売業者、消費者など、10ページに渡りあらゆる角度から取り上げたものです。全国への出場は逃したものの5年連続表彰となりました。

この度の受賞は、町民のみなさんをはじめ、各関係機関のご支援、ご協力のたまものであり紙上より厚く御礼申し上げます。

今後も、親しまれる広報紙を目指し、みなさんと一緒に紙面を作り上げていきますので、更なるご支援、ご協力をお願いします。



広報いしかわが 変わります

のホームページも、段階的にデザイン・レイアウトをリニューアルする準備を進めています。
●情報量が豊富で、見やすく、使いやすいホームページを目指しています。
<http://www.town.ishkawa.fukushima.jp/>



●「人物発見伝」、「町づくりを学ぶ」がなくなり、好評でした人物発見伝は、人物の情報収集等の準備期間を重ね、また取り上げてみたいと考えています。
●「インフォメーション」のお知らせ記事等は、すべて「行政だより」に移し、お知らせ記事を行政だよりにまとめます。
●また、新コーナーも検討中ですのでお楽しみに！
ホームページもリニューアルの準備を進めています。
●平成10年11月に開設した石川町の

2004年4月1日号から

デザイン・レイアウトをリニューアル

町民のみなさんにご愛読いただいております『広報いしかわ』は平成16年4月1日号からリニューアルします。
どこが変わるのかな？
●表紙から終面まで全ページのデザイン・レイアウトを一新！
●「人物発見伝」、「町づくりを学ぶ」がなくなり、好評でした人物発見伝は、人物の情報収集等の準備期間を重ね、また取り上げてみたいと考えています。
●「インフォメーション」のお知らせ記事等は、すべて「行政だより」に移し、お知らせ記事を行政だよりにまとめます。
●また、新コーナーも検討中ですのでお楽しみに！
ホームページもリニューアルの準備を進めています。
●平成10年11月に開設した石川町の



案内

募集

相談

Fメール <http://www.fukushima-minpo.co.jp/fml/>

新型住宅ローンが誕生

住宅金融公庫による証券化を活用した長期固定金利型の新型住宅ローンが民間金融機関から誕生しました。

最長35年の長期固定金利型証券化により民間金融機関をバックアップ
住宅の「質」を確保
保証料・繰上返済手数料が不要

幹部自衛官を募集

一次試験
平成16年5月22日(土)・23日(日) (23日は飛行要員のみ)
試験場所 日本大学工学部(飛行要員は地連本部)
受付期間
平成16年4月7日(水)～5月6日(木)
試験場所及び試験日は、平成15

お問い合わせ先
住宅金融公庫のホームページ
<http://www.jyukou.go.jp/>
または、住宅金融公庫東北支店
☎022-2227-5003まで
お問い合わせください。

度の例であり変更する場合があります。
お問い合わせ先
自衛隊福島地方連絡部
白河募集事務所
☎0248-24-0372

平成16年度自衛隊幹部候補生募集

募集種目	募集人員	資格	
幹部候補生	男子 一般・技術	陸・約75人 / 海・約60人 / 空・約35人	22歳以上～26歳未満 大卒(見込含む)
	女子	陸・約10人 / 海・約5人 / 空・約5人	大卒(見込含む)
幹部候補生	男子 歯科・薬剤	陸・約10人 / 海・約5人 / 空・約5人	20歳以上～30歳未満 専門の大卒(見込含む)



3月 March			
17	水	心配ごと相談 (10:00~)	老人福祉センター
18	木	野木沢幼稚園卒園式 (10:00~)	同幼稚園
		石川文化幼稚園卒園式 (10:00~)	同幼稚園
19	金		
20	土		
21	日	春分の日	
22	月	国連水の日	
23	火	小学校卒業式 (石川・沢田・野木沢・中谷一・中谷二・南山形・山形 = 10:00~ / 母畑 = 9:30~)	各小学校体育館
		交通事故巡回相談 (10:00~)	役場宿直室
24	水	保育所・児童館満了式 (新田・谷沢・沢田 = 9:30~ / 山形 = 10:00~)	各保育所・児童館
		世界結核デー	
25	木	保育所満了式 (第一・第二・母畑・野木沢 = 9:30~)	各保育所
26	金	保育所・児童館満了式 (外横・中田・板南・中谷 = 9:30~)	各保育所・児童館
		心配ごと相談 (10:00~)	老人福祉センター
27	土		
28	日		
29	月		
30	火		
31	水		

4月 April			
1	木	緑の募金 (~ 5 / 31まで)	
		未成年者飲酒防止月間	
2	金	東日本高校強化ハンドボール大会 (~ 4まで / 10:30~)	クリスタルパーク石川
		保育所入所式 (第一・第二・母畑・野木沢 = 9:30~)	各保育所
3	土	保育所・児童館入所式 (新田・中田・中谷 = 9:30~)	各保育所・児童館
4	日		
5	月	保育所・児童館入所式 (外横・谷沢・板南・沢田 = 9:30~)	各保育所・児童館
6	火	小学校入学式 (石川 = 10:30~ / 沢田・野木沢・母畑・中谷一・中谷二・南山形・山形 = 10:00~)	各小学校体育館
		中学校入学式 (石川・沢田 = 10:00~)	各中学校体育館
7	水	学法石川高等学校入学式 (10:00~)	同体育館
		心配ごと相談 (10:00~)	老人福祉センター
		世界保健デー	
8	木		
9	金	県立石川高等学校入学式 (10:00~)	同体育館
		野木沢幼稚園入園式 (10:00~)	同幼稚園
		石川文化幼稚園入園式 (10:00~)	同幼稚園
10	土		

メモリーコーナー



(平成16年1月1日~1月31日まで届出分 敬称略)

吉岡塩安小
田本藤松氏
勝刃サ久可名
亥三イ江奈



おくやみ

〔有〕 永瀬 子
〔我〕 賀賀 正司
〔齊〕 妻 綾子
〔藤〕 静 子
〔寛〕 人 子

〔鈴〕 鈴木 志暢
〔竹〕 田 竜児
〔新〕 郎 新婦



カップル誕生

大森清夢 (正則・秋子) 沢井
黒川菜々美 (正幸・恵美子) 中野
小豆畑知歩 (和弘・明美) 松木下
山田拓海 (喜男・喜久恵) 王子平
佐久間輝 (鉄也・綾子) 中野
山崎菜緒 (秀生・朝美) 双里
氏名 保護者 住所



こんにちは赤ちゃん

住新屋敷 岡部 八ツヨ
矢内 心子
矢祐 男子
遠藤 正美
原 三ヨ
迎 三ヨ

〔双〕 古殿町 里
〔中〕 野 村
〔住〕 野 所
〔高〕 木 宏志
〔佐〕 々木 直子



〔高〕 木 宏志
〔佐〕 々木 直子

南條 満咲 (明・優子) 坂路
松原 大越 裕哉 (信司・都) 矢野
大越 裕哉 (信司・都) 矢野
橋本 恵太 (優治・トワ) 矢野
草野 唯 (文明・薫) 曲木
岡部 聡人 (記史・さおり) 屋敷入

坂ノ路 鹿ノ坂 南山形 中田 新町 北町

〔古〕 里 館

小さな美術館

第204回
母畑保育所

施設の紹介

外遊びが大好きな子どもたちは、広い所庭を元気に走り回り、大好きなドッジボールやままごと、鉄棒遊びを楽しんでいます。17人と少人数ではありますが、仲間意識やあそびへの意識が高まり、毎日、想像性豊かにあそびを展開している子どもたちです。



「出来るようになった逆上がり」

遠野 湧也さん(6歳)

「クラス全体で夏から取り組んできた鉄棒の逆上がり、あっという間に出来るようになった湧也くん。出来るようになったうれしさを描きました。」



「楽しいドッジボール」

木戸 うらんさん(6歳)

「うらんさんは、ドッジボールやなわとび、竹馬が大好きです。寒い日もボールを持って外へ出て行きます。大好きなドッジボールの絵を描きました。」

編集後記

車社会の時代にバスは必要と問うとき、悩む人たちも多いかもしれません。特集取材を進めるなかで、地方バスの厳しい現状に驚かされました。バスや電車は公共性が高く、走っているのが当たり前のような中、地方は自家用車の利便性が高く、利用しているのは学生と少しのお年寄りくらい。存続をかけても、余裕がある時は、近くのバス停から通勤、買い物にでも出かけて見ては…。昨年、社会勉強と思い、子どもたちを連れて10年ぶりに水郡線に乗ってみました。結構、楽しいですよ。(迎 茂城)

町民憲章

- 1. 自然と文化を愛し
豊かな町をつくりましょう
- 1. 親切と勤労をむねとし
住みよい町をつくりましょう
- 1. 歴史と未来をみつめ
誇りある町をつくりましょう

ふるさとの花だより

写真提供 / 関根政信さん



(タチバナノフグリ:ゴマノハグサ科)

ヨーロッパ原産の帰化植物で、明治のはじめに渡来したと言われていいます。4月～6月にかけて、オオイヌノフグリと同じようなところに生えますが、やや乾いたところにも生え、オオイヌノフグリの盛りが過ぎるころに咲き始めます。茎は根元で分枝して直立し、高さ10～30cmになります。花は直径3～4mmとオオイヌノフグリに比べるとずっと小さな花です。

表紙の登場人物



中谷児童館に通う鮎沢ほのかさん(中央)と祖父の勝さん(左)、祖母の米子さん(右)です。

町の人口

2月1日現在住民基本台帳

	19,211人(-13)
男	9,391人(-6)
女	9,820人(-7)
世帯数	5,584戸(+2)

()内前月比

いしかわ

2004 **3** March
平成16年3月1日発行
第530号

町が好き、人が好き、
みんなでつくる町が一番好き



CONTENTS



2 いま、路線バスを考える

5 石川町省エネビジョン最終回

6 町のホットニュース

8 みんなの広場

10 I Like Ishikawa

11 町史編纂室だより

14 町からのお知らせ



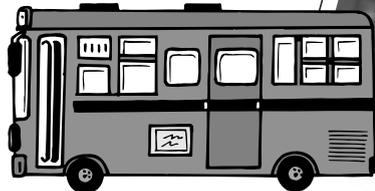
SAKURA



SUGI



UGUISU



いま 路線バス を考える

まちを走る路線バス
 車社会となつて現在の
 交通弱者である通学者や通院者にとつて
 なくてはならない交通手段
 年々利用者が減少するなか
 町の負担も増加の一途をたどっている
 厳しい町の財政状況・・・ 減り続ける利用者・・・
 バスはどうなるのか？
 今回は、路線バスについて考えてみましょう





バスは交通弱者のあし

現 在、本町を走る路線バスは福島交通16路線とJRバス1路線の計17路線が走っている。

バ スの利用者は、交通手段を持たない高校生を始めとした児童・生徒と定期的に病院へ通う高齢者がほとんどである。

路 線バスは言うまでもなく、交通手段を持たない交通弱者にとっては、日常生活には欠かすことのできない役割を果たしている。

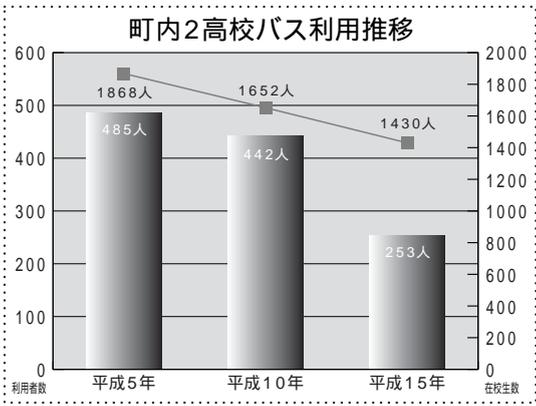
マ イカーなどのモータリゼーションの普及に伴い、バス利用者は年々減少し、現在では全国を走る路線バスの8割が赤字路線と言わ

れている。

福 島県内での年間バス利用者は、昭和43年の1億5、817万人をピークに平成14年には3、123万人まで減少している。県内においても運行している約7割が赤字路線となっており、本町においても例外ではなく、年間577万人を超えていた利用者も、今では67万人まで落ち込み、一便平均3人程度の乗車人数となっている。

国 の厳しい財政背景もあり、地方分権という施策の一環として道路運送法が改正され、平成13年4月から新しいバス制度がはじまっ

ている。



ている。

バ ス事業は従来、免許制であったが許可制へ移行された。つまり、国による規制緩和施策の一つの表れであり、既存の路線に新たなバス事業者の参入・撤退が自由に行き、事業者間の競争により運賃値下げや利用者の利便性の向上などが図られるとした考えである。

バ ス路線の自由化は、赤字路線の抑止と事業者の健全経営を目指して行われているが、人口密度の高い都市部とは異なり、地方にお

事業者も町も努力しているが・・・

本 町を走るバス事業者も苦しい経営が続いている。あるバス事業者は、余り活用されていない土地や建物などを売却し、経営の健全化に努めている。また、多くの利用

いては、ますますバス事業を取り巻く環境が厳しさを増していると言える。



者の獲得をめざし、一定距離以上の運賃を一律800円とした運賃の値下げ、高齢者・障害者や子どもに優しい低床バスの導入などによりサービスの向上に努めている。

普 通であればとうの昔に営業撤退がなされ、廃線になるのが地方路線バスの実態である。

し かし、マイカーが普及したといっても、交通手段を持たない交通弱者にとって、バスはなくてはならない交通機関である。そのため、町は赤字分を負担したり、JR水郡線と乗り継ぎを考慮しダイヤ編成を行うなど、少しでも利用しやすいように関係機関と協議を重ね路線維持に努めているが、利用者増とはなっていない。